

ミズ スクエア Ms. SQUARE

きよせ女性広報
2021.10



きらり
清瀬で生きる女性にインタビュー

Information
アイレックからのお知らせ

特集

ウィズコロナ時代を生きる

〈見つめたい課題、そして願い〉



図1 産業別雇用者の男女別・雇用形態別の割合（2019年）

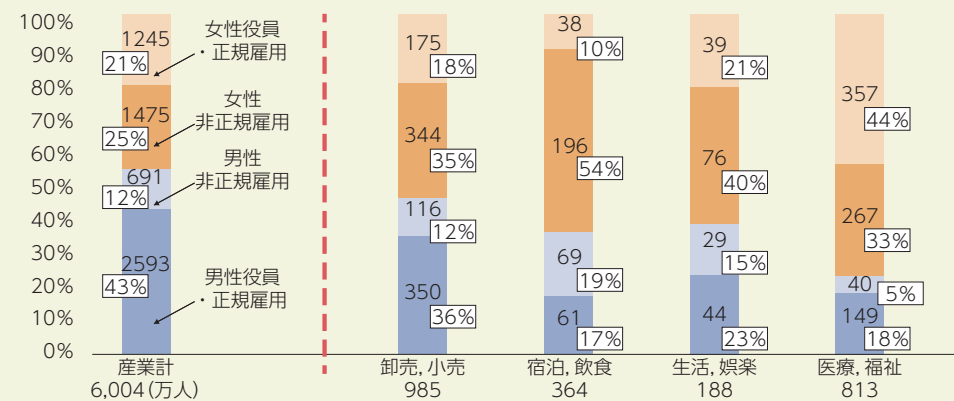


図2 産業別就業者数の前年同月差（2020年4月～2021年2月の一月当たり平均）

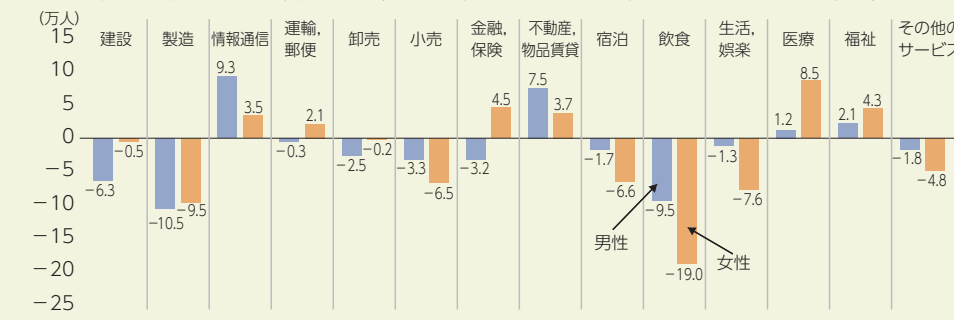


図1（一部改変）・図2 令和3年コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書 内閣府男女共同参画局／※1 厚生労働省「国民生活基礎調査」／※2 「しんぐるのまざあず・ふおーらむ」調査／※3 その国や社会、地域などの水準と比較して大多数よりも貧しい状態／※4 令和3年度男女共同参画白書 内閣府男女共同参画局

女性の往來を抑制するためテレワークが推奨され、ある程度の定着をみました。しかし、問題点も浮き彫りになりました。テレワークは大企業ほど高く、業種では「ITや通信関連業種が高くなっています」※4。医療・福祉分野や多くの非正規雇用の女性は、このような労働環境からも、テレワークが推進される職種からも、遠ざけられている実態があります。また、テレワークの中で起こるハラスメントも指摘されており、新たな職業倫理が求められています。

女性の場合、家事や育児とのバランスなどを含め、利点・問題点が気になるテレワークですが、雇用者の適切な対応の下、正規・非正規に関係なく公平に行き渡り、推奨され拡大されることが望まれます。



（山口）

テレワークの実態と今後

人の往來を抑制するためテレワークが推奨され、ある程度の定着をみました。しかし、問題点も浮き彫りになりました。テレワークは大企業ほど高く、業種では「ITや通信関連業種が高くなっています」※4。医療・福祉分野や多くの非正規雇用の女性は、このような労働環境からも、テレワークが推進される職種からも、遠ざけられている実態があります。また、テレワークの中で起こるハラスメントも指摘されており、新たな職業倫理が求められています。

母子世帯の生活

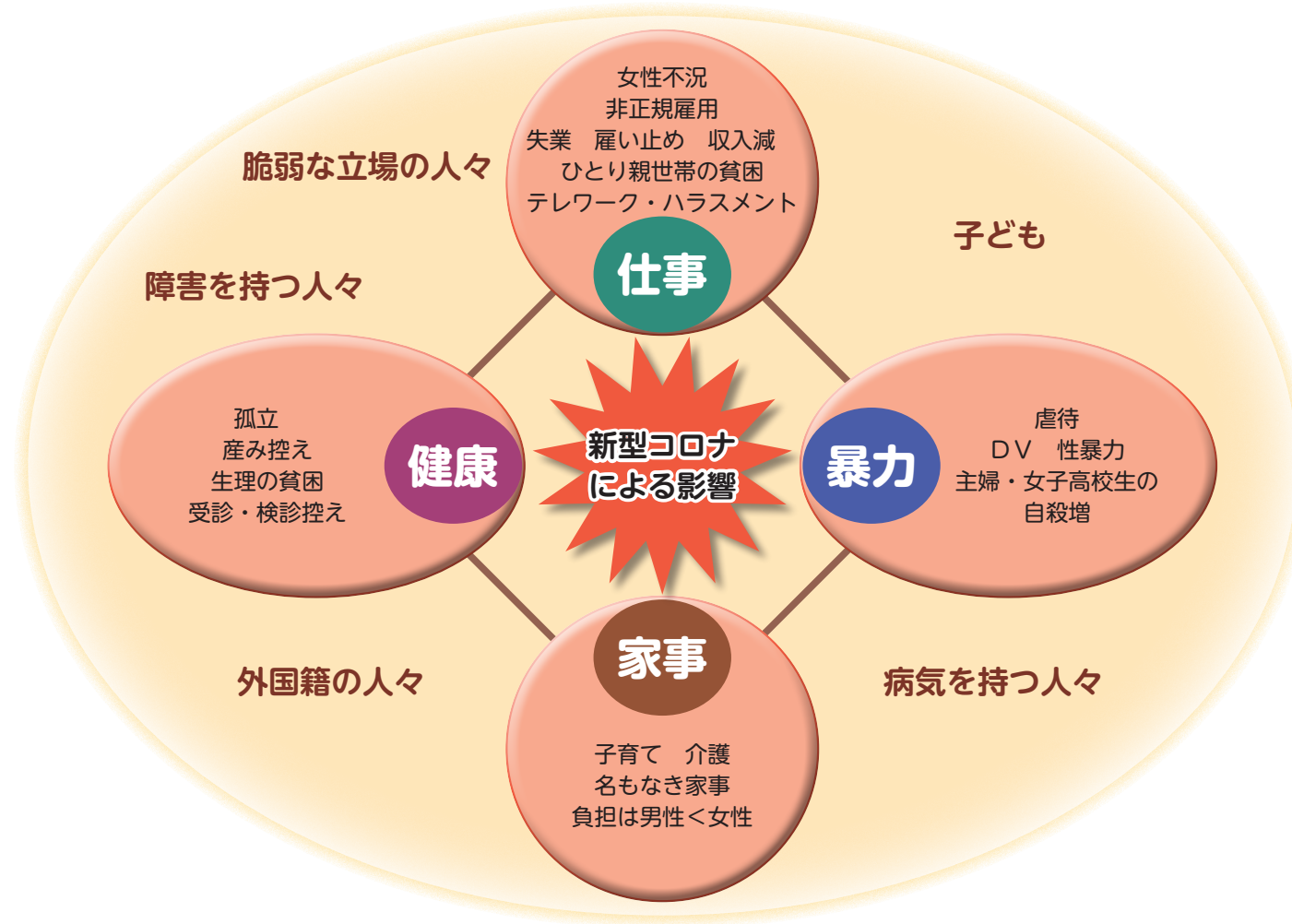
母親が働かざるを得ない母子世帯の影響は、より甚大です。昨年の調査では、「暮らしが苦しい」と回答した母子世帯は半数以上と高い数字を示しています※1。「子どもと二人月12万円で暮らす」や「野菜はモヤシだけ」などと回答する母親もあり、小学生の子どもがいる母親のうち、全体の1割以上が「子どもの体重が減った」と回答しました※2。母子世帯では、半数が相対的貧困※3といわれますが、親の貧困は、すなわち子どもの貧困につながります。

の女性が、その近所の住人に殴打されて亡くなるという、痛ましい事件もありました。

特集 ウィズコロナ時代を生きる

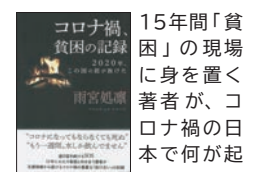
～見つめたい課題、そして願い～

私たちの住む世界に新型コロナウイルスが発生してから、もうすぐ2年が経とうとしています。今年2月から、医療従事者を中心にワクチンの接種が始まり、清瀬市でも5月から接種が進められています。しかし、変異ウイルスの存在など依然として予測できない状況は続くことが考えられ、変化した生活様式の中で、改めて心身の健康をどう保っていくかは今後の重要な課題です。私たちは、脆弱な立場の人々が受けた影響を見つめ、仕事・健康・家事・暴力という4つの視点からこれからに向けて何ができるのか考えてみました。



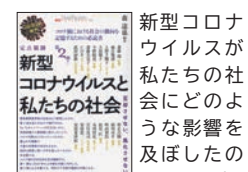
本の紹介

コロナ禍、貧困の記録～2020年、この国の底が抜けた～
雨宮処凛著 / かもがわ出版



を克明に描いた迫真のルポルタージュ。

定点観測 新型コロナウイルスと私たちの社会～2020年後半～
森達也編著 / 論創社



ジェンダー・メディア・難民等様々な立場から解き明かした記録集。

ポストコロナ期を生きるきみたちへ
内田樹編 / 晶文社



女性だけでなく、日本の10代に向けて、多様な20人の大人が勇気をくれるメッセージ集。今こそ手に取りたい一冊です。

★今号で紹介した本はアイレックまたは清瀬市立図書館で借りることができます。

今回の特集に関わる地域の5人にインタビューしました

① 子育てをシェアし 共に育ち合える社会を

インタビュー

児童養護施設 子供の家 施設長 早川 悟司さん

昨春の緊急事態宣言時、一斉休校期間中は施設全体で子どもたちは穏やかに過ごしました。学校が再開すると、落ち着かない子どもたちの様子もありましたが、それだけ学校という存在が子ども達にとってプレッシャーなのだと改めて気付かされました。

コロナ禍において深刻なのは、入所児童よりも施設を退所した人々たちです。今でこそ22歳の年度末までの入所継続が認められていますが、つい数年前までは制度上、原則18歳で施設を出て自立・自活を余儀なくされてきました。退所後はまず仕事と住まいを確保することも必要で、住み込みで働くことも多く、転職したり仕事を辞めたりすると住むところを失い、連絡がつかなくなるケースも多くありました。

子供の家では、社会に出て孤立しがちな退所者を行方不明にしないために、退所者一人ひとりの状況把握とアフターケアを行っています。また、奨学金や高校卒業後の入所支援継続など様々な制度を、使えるように環境を整えたことで、今では入所者の多くが大学や専門学校等へ進学するようになりました。

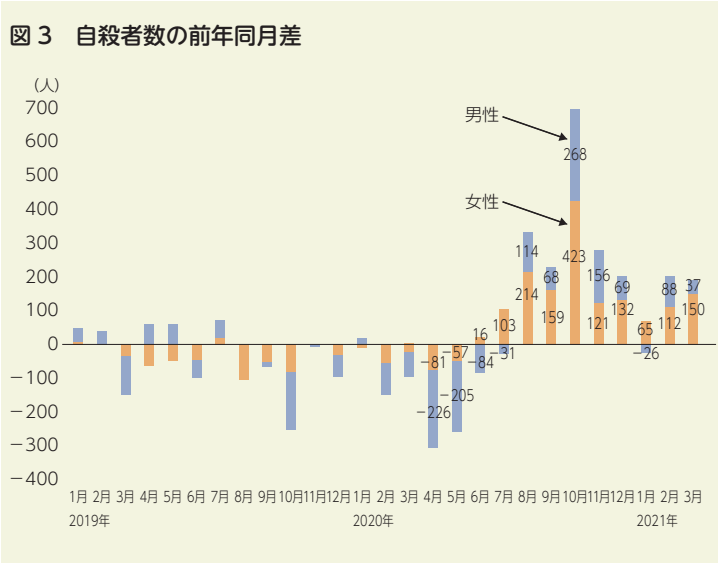
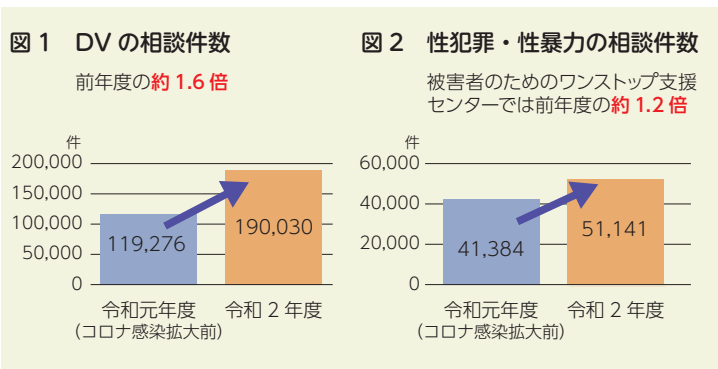
現在、〆育ちのシェアステーションをコンセプトに、新たな子どもの居場所を開発準備中です。気軽に相談したり子どもを預けたりできる「24時間利用可の学童保育所」のようなイメージで、子ども食堂の方や地域の皆さんにも関わってもらえたらと思っています。児童養護施設に入所してくる子どもは、母子家庭等の貧困・ネグレクト・虐待通報・一時保護というケースが典型的です。子どもにとっては今まで生活してきた学校・地域・家庭から一気に引き剥がされ、一時保護される前に、地域の中で「家庭を支える仕組み」が必要だと感じてきました。『虐待』という言葉で親にネガティブなレッテルを貼ったり、不適切な養育環境に起因する諸問題を「自己責任」として切り捨てたりするのはなく、地域全体で子育てをシェアし共に育ち合える社会を目指していきたいと思っています。（奥澤）

ジェンダーに基づく暴力

女性への暴力は人権侵害であり、ジェンダーに基づく差別の一形態でもあると認識されています。コロナ禍の影響で、更に深刻な状況です。

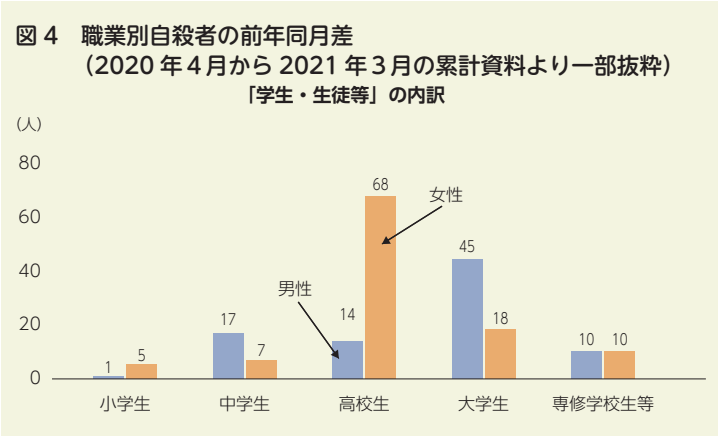
DV・性犯罪・性暴力相談の増加

配偶者や親からの虐待・暴力では、ステイホーム、テレワークや仕事時間・場所の縮小、学校の休校、地域活動の休止などで加害者と長時間に過さなくてはならない状況が続く、家庭内での問題が悪化しています。国でDV相談＋プラス」という窓口を新設しましたが、相談件数は前年同期の1.6倍、DV防止法施行後、最多の数となりました(図1)。



自殺率の増加

コロナ禍でもう一つ変化したのは、女性の自殺率増加です(図3)。特に30代までの女性の自殺率が増加し、なかでも「主婦」「高校生」が目立ちます(図4)。家以外の居場所を失くして行き場のない思いを抱える人が増え、外部にSOSを導出し、周知を図っています。



を求めにくい状況が生まれています。10代では、学校と家庭が生活の中心で、困難を抱えた時に一人で思い詰めるケースもあります。都内では、BONDプロジェクトや若草プロジェクトなどの若い女性を支援する団体が活動中で、清瀬市内でもNPO法人ウィズアイが、不登校の生徒たちの居場所作りに取り組んでいます。最近では、電話や対面での相談に加え、メールやSNSでの相談窓口も開設されています。孤立や貧困で苦しむ人に寄り添い、様々な支援の手が届くことが、今後更に求められるでしょう。どうか一人で悩まないでほしいと願います。(中嶋) ※1・図3・図4 令和3年コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書 内閣府男女共同参画局/図1・図2「共同参画」7月号 内閣府男女共同参画局 参考

コロナ禍の健康への影響

新型コロナウイルスに対応する重要な項目を示した「スフィア基準」というものがあります。これは、戦争・自然災害や感染症を含む災害に対する人道支援の国際基準です。項目の3つ目に、「新型コロナウイルスの拡散防止に集中しすぎるあまり、そのほかの問題や長期的な医療ニーズをないがしろにすることがあってはならない」とあります。コロナ禍で、人々の長期的な医療ニーズにどのような影響があったのでしょうか。

妊娠・出産

昨年の出生率は1899年の統計調査開始以来、最も少ない数になっています。前の年から0.02ポイント低下の1.34となり、出生数はおよそ84万人となりました。感染拡大で妊活や不妊治療の休止、「産み控え」が進んだ影響が大きいと考えられています。また、平時であれば当たり前にできていたことも中止や延期を余儀なくされています。妊婦検診のパートナーの同伴(55%減)、両親学級の参加(58%減)、立ち合い出産(70%減)、産後入院中のパートナーや家族の面会(71%減)などです※1。これから始まる育児のスタートをパートナーと共有できず、不安や戸惑いを感じた方も多いのではないのでしょうか。



「得」がありました。またテレワークや時差出勤が増えたことなども、パートナーと自然と協力し合える契機になったかもしれない※2。コロナ禍で里帰りできない妊産婦・家族のため、地域の助産師による「東京 里帰らない人応援プロジェクト」も行われました。生理の貧困 「生理の貧困」とは、経済的な理由や親のネグレクトなどが原因で生理用品を十分に手に入れることができない環境を指す言葉です。新型コロナウイルスの経済的な影響が長引く中、生理の貧困に直面している人が増えています。各自自治体や民間企業などで対策がされており、清瀬市でも市内4か所ですり用品の配布が行われています。東京都は、今年9月からすべての都立学校の女子トイレに生理用品を置くことになりました。受診控え・検診控え 感染への不安から患者側の「受診控え」や「検診控え」が聞かれます。一方で、医療体制の見直しやコロナ病床の確保などにより、治療形態の変更をせざるを得なかった、という状況もありました。通院や治療に関しては自己判断が健康上のリスクを高める可能性もあります。主治医と相談すること、定期的に検診を受けることは自身を守るための大切な行動と言えるでしょう。(篠原) ※1 NPO法人ファザリング・ジャパン コロナ禍前後の妊娠出産アンケート結果 令和元年9月/※2 「LCC」(日本労働組合総連合会)

カサンドラ症候群とは？

パートナーや家族など生活の身近ににいる人がアスペルガー症候群であることが原因で、情緒的な相互関係を築くことが難しく、不安や抑うつといった症状が出る状態です。(アスペルガー症候群は、対人コミュニケーションや場の空気を察することが苦手だったり、自分のルール・パターンなどのこだわりがあります)

脱出力カサンドラ 中級編

櫻田万里 (SORA) 著 / アスペルガー・ア라운드



夫婦関係を中心に、職場や子どもとの関係、様々なカサンドラ状態(左解説参照)が体験談として載っています。どのように向き合い、乗り越えたか、自身と重なる部分やヒントが得られるかもしれません。

本の紹介

「背景」から考える 気になる子の保育サポートブック

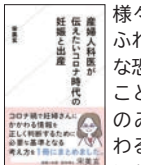
清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ(岩澤寿美子・西村和久) 監修/新星出版社



どのクラスや園にもいる、ちょっと「気になる子」。実は「困っている子」なのかもしれません。その行動の背景にあるものに目を向けることが大切だと著者は言います。各章ごとの導入漫画やイラストもわかりやすく構成されています。

産婦人科医が伝えたい コロナ時代の妊娠と出産

宋美玄著 / 星海社



様々な情報があふれる今。「適切な恐れ方を知る」ことは妊婦さんのみならず、関わる全てのひとにとっても重要なメッセージです。

インタビュー③ 共に考え、子どもにとってより良い環境を



清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこ 支援・交流センターとことこ センター長 岩澤 寿美子さん 児童発達支援管理責任者 関 慎子さん

清瀬市子どもの発達支援・交流センターとことこは、清瀬市に住む18歳までの発達に不安を持つ子どもと家族を対象に、主に相談支援・発達支援・療育支援を行っています。地域支援という部分では、学校や幼稚園・保育園などと連携を取り、発達に課題のある子どもへの対応のみならずクラス全体の運営に役立つよう助言をしています。

昨年の緊急事態宣言下では、休校による影響から相談やお問い合わせが多くなるのではと考えていましたが、相談件数が例年より増えたのは学校が再開してからでした。発達に課題のある子どもにとって、家庭での生活から集団生活で求められる行動や規律に沿って過ごすことがいかに大変なのかを実感しました。「発達に課題のある子」という視点だけで見るとではなく、「気になる行動の背景」にはなにがあるのか?家族と一緒に考えながら、より良い環境を整えることが大切です。私たちと一緒に、子どもたちを困む大人が理解を持って見守る地域になっていけたら...そう願っています。

子どもの発達に悩んだり困ったりしたとき、清瀬市には「とことこ」という場があります。まずはお話を伺い、一緒に考える機会を、と思っています。(篠原)



金山公園とカワセミを守る活動

『川づくり・清瀬の会』が、良い川づくりを、と活動を始めたのは平成7年のことです。きっかけは、柳瀬川の清瀬橋から金山緑地公園までの拡幅工事が始ま

ピンクのカタクリに魅せられて
60年程前、初めて清瀬駅に降り立った当時、大踏切脇から志木街道に抜ける細道は、深い雑木林の中でした。静かな林を抜けると広い茶畑と野菜畑が広がり、その背景にはまた雑木林が連なっていました。
屋敷林に守られた農家の堀沿いに坂を下ると、対岸の木立を水面に写して流れる空堀川に出会い、その趣にも心惹かれました。
早春の空堀川に沿う雑木林には、一面ピンク色のカタクリの花が咲き、それもまた大変驚きの眺めでした。クヌギ・コナラの新芽と優しい花色に魅せられて、清瀬町（市制前）の住民になろうと決めました。



川と林とそこに棲む生き物との共存をめざして

川づくり・清瀬の会 顧問 宮澤とよ美さん

り、河畔林と天然護岸を失う計画を知って、保全活動を始めたことでした。改修計画では、金山公園の池の近くまでが河川用地でした。「公園の敷地や護岸の土手と樹木を守ろう」「流れを隔てた対岸の斜面林にある、カワセミの営巣地を守ろう」と集まった45名程の皆さんと、都へ要望書を出しました。

当時の工事責任者と話し合いを重ね、計画流量を確保しつつ公園を縮小することもなく、また、カワセミの営巣地も保存することができました。
折しも、国では平成9年に河川法が改正され、治水と利水に加えて、「河川環境の保全と創出」が加わり、川づくりへの市民参加が本格的に始まりました。

空堀川と柳瀬川新合流地点の改修工事では、都市河川としては貴重な天然護岸と豊かな河畔林を残すために、多くの署名を集めて東京都に要望書を出しました。それによって、柳瀬川の旧川を残せたことも大きな喜びでした。

子どもたちと共に活動

もうひとつの大きな活動は、未来を担う子どもたちとの活動です。小・中学校の学習の一環で、水質調査や自然観察などのほか、河川の清掃など活動は多岐にわたります。

「川まつり」では、川に入った子どもたちは、生き物の豊かさや、川の流れの変化から水の怖さも体験します。楽しく川遊びをしながら、深みにはまったとき、空が見えるように「大の字」



川づくり・清瀬の会の協力の下、清瀬市内を流れる2つの川の歴史や長年調査した記録をまとめた清瀬市発行の冊子



空堀川岸辺に咲くシソ科の在来種「メハジキ」。夏に可憐な花をつける



検査キットを使って川の水質検査を行う。この日の川の水質は中性に近く安定していた

女性の家事負担の陰に「名もなき家事」

「コロナ対策で家にいる時間が長くなり、男女ともに家事の総量が増えました。そこで家事の分担比率を問うと、未視点では「男性46・女性54」、妻は「男性24・女性76」と大きな差があります※1。夫自身は家事を分担していると思いつ、妻は夫の家事負担は軽いと感じる。この古くて新しいギャップが生まれる理由の一つが「名もなき家事」ではないでしょうか。

妻の負担が重い要因は、掃除・洗濯・料理といった家事以外の必要不可欠な「名もなき家事」の存在に夫が気付かないからかもしれません。

例えば「ゴミ出し」。渡された「ミ袋を家からゴミ置場に運ぶのは「ゴミ出し」の一部に過ぎません。家中の「ミを集め、正しい曜日・時間に決められた方法でゴミ置場に出す。ゴミ箱の掃除や指定ゴミ袋の残数の確認。カラス避けのネットを使っ

の作業が「ミ出し」です。

家庭内の全方位に目を配り、生活が円滑に運ぶように整える。「名もなき家事」は家事の要とも言えるべきものです。その多くを妻が担っています。従来の「名もなき家事」に加えてコロナ禍では「こまめな換気や手洗い」「マスクや消毒液の在庫確認」などが増えました。

家事・育児の負担は、夫婦関係にも大きく影響しています。「夫」または「夫と妻」の家事育児の役割が増加した世帯の約42%が、「夫婦の関係が良くなった」としており、「妻」の役割が増加した世帯の約17%を大きく上回りました※2。家事育児の役割を見直し、コロナ感染症対策で増えた在宅時間を家族のきずなを深める機会としたいものです。（湯浅）※1パナソニック調べ／※2コロナ下の女性への影響と課題に関する研究会報告書 内閣府男女共同参画局

名もなき家事リスト

- ☐ 毎日の献立を考える
- ☐ グリーニングに出す・受け取る
- ☐ 不要になったものを処分する
- ☐ シャンプーや洗剤の補充
- ☐ 各種手続き。更新解約・登録など
- ☐ 宅配便の受け取り・再配達の手配
- ☐ 手を拭くタオルを取り替える
- ☐ 洗濯物をたたむ
- ☐ ペットボトルのラベルを剥がす
- ☐ 学校の持ち物をチェックする
- ☐ 学校の検温カードの記入
- ☐ 消耗品の在庫を確認
- ☐ 学校行事への参加
- ☐ 家の周りを掃除する
- ☐ 排水溝のごみを取る

4 気楽に参加・親子交流できる場を



「K-net」(清瀬子育てネット)の責任者 古川 寧子さん

「K-netひろば」は、予約不要・出入り自由(月1〜2回開催)。子育て中の親子が自由に過ごす場所です。NPO法人子育てネットワーク・ピッコロが市の委託を受け運営しています。

昨春の緊急事態宣言では「K-netひろば」も休止。再開には覚悟がいりました。コロナ前は1日に延べ100人もの参加者がいたこともあり、子育ての悩みを共感し合える場所の大切さは十分認識していましたが、感染リスクにどう対処すべきか悩みました。それでも再開を待つ人にこの活動を届けようとして、できる限りの感染対策をして、昨年6月には「K-netひろば」を再開しました。毎回15分、お子さんを保育者に預け、大人だけのおしゃべりの場を設けています。何でも気楽に話せてリフレッシュできると大変好評です。



K-netひろばの様子

感染を気にして参加しづらい、との声に添えて、ピッコロでは月に一回NPOによる「おんらいんしゃべりば」も開催。試行錯誤の最中ですが、新しい試みの一つとして参加者の皆さんと作っていきます。親が幸せだと子どもも幸せ、との思いで支援を継続しています。（山崎）



ピッコロおんらいんしゃべりば

5 コロナ禍でも前向きに



インドネシア出身 アイスさん

日本に興味を持ったきっかけはアニメです。自粛一色だった昨年、日本語学校を卒業し、紹介されるまま大型温浴施設のレストランに就職しました。コロナ禍でも、辛い仕事は続けられています。日本語学校在学中にタイミングよく施行された特定技能ビザを取得できたことが、正社員としての安定した生活の基となっています。同郷の友人と会えない中で、地域の日本語教室が何かと助けになっています。



困っていることもあります。日常会話には不自由ませんが、仕事上、日本人のパートナーに指示を出す時に行き違いが生じること。イスラム教の禁忌の飲み会に誘われたり、仕事中に祈りの時間が取れないこと。母国の家族のことも気がかりです。コロナ禍での飲食業の先行きに不安を感じることもあります。それでも将来のことは、あまり心配していません。コロナ終息後は、まずマスクを外して祭りに行きたい。これからも流れに身を任せて前向きに生きるつもりです。（湯浅）

※特定技能ビザとは2019年に施行された、労働力人口減少解消のため外国人を受け入れる仕組み。

に浮いて、まずは慌てず呼吸確保をするなど、命を守るための川遊びルールも学びます。

未来を担う子どもたちへ話したい

子どもたちはタモ網を持って、川に入ると、ドジョウやフナ居場所をすくみつけます。ホタルやトンボは、羽が生えるまでは水の中で生活します。そんな水生昆虫が、たくさん川の中で生きていることも知ってほしいです。

川遊びを体験した子どもたちが大人になったとき、どういう川が生き物にとって棲みやすい川なのか、どんな川が安全で地域の皆さんに愛され、親しまれる川なのか、理解できるでしょう。小さな生き物や野草など自然を大切に、それらと共存していける自然豊かな社会を、未来ある子どもたちに託したいですね。

(インタビュー 山口)

2021 (第26回) アイレックまつり

今年のアイレックまつりは、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんの講演会とアンガーマネジメント講座を開催します。新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催します。アイレック登録団体やサポーターの活動紹介パネルは、11月27日から12月下旬まで男女共同参画センターに展示します。ぜひ、ご来館ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更もあるため、最新情報は、市報・市ホームページにてご確認ください。

ワークショップ

「コロナ禍での怒りのコントロール」

～変化を楽しむ しなやかな心を作るには～

日時：令和3年11月27日(土) 10時～正午

講師：相原あすかさん

一般社団法人日本アンガーマネジメント協会シニアファシリテーター

講演会

「私が写真をとおして伝えたいこと」

～紛争地、被災地からの声～

日時：令和3年11月27日(土)

14時～15時30分

講師：安田菜津紀さん

フォトジャーナリスト



性的マイノリティに関する取り組み②

■6月20日 明治大学教授の鈴木賢さんを講師に迎え「パートナーシップ制度をまなびつくす」がオンラインで開催されました。制度構築に向けた意義や現状を知る貴重な機会となりました。

■7月18日 ドキュメンタリー映画「ハーヴェイ・ミルク」上映会、感想を分かち合う「カフェきよにじ」を実施。70年代米国カリフォルニアでのLGBTQ当事者議員の暗殺事件を扱った内容。何度も観た人にも、初めての人にも感動と取り組みへの静かな決意を促す場となりました。

令和4年度のMs.スクエア編集委員を募集

Ms.スクエアの編集委員を募集します。活動内容は企画・原稿執筆・取材・編集会議への出席です。現在は、オンライン会議を交えながら誌面を作成しています。保育もあり、子育て中の活動も可能です。

男女共同参画に興味がある・文章を書くのが好き・取材をしてみたい・広報誌を作ってみたいという皆さまの応募をお待ちしています。

応募条件：20歳以上の女性で文章講座の受講者（受講できない方は応相談）

任期：令和4年4月～令和6年3月

問合せ：男女共同参画センター TEL042-495-7002

申込：12月2日（木）までに応募動機を800字程度にまとめ、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を記入し、男女共同参画センターへ郵送・FAXまたは直接ご持参ください。

プロから学ぶ ～文章講座～

日時：10月27日、11月10日、24日各水曜日

いずれも10時～正午

場所：清瀬市男女共同参画センター（アイレック）

講師：大橋由香子さん（フリーライター・編集者）

申込：10月1日から☎042-495-7002（土日祝日除く9-17時）

参加条件：自宅にパソコン・インターネット環境がある方

コワーキングスペース「ことりば」がオープンしました！



アミュービル5階にきよせコワーキングスペース「ことりば」が8月1日にオープン。テレワーク・資格取得のための勉強など、ニーズに合わせてご利用できます。また、利用者同士の交流や、地域の人と繋がるチャンスも広がります。

コワーキングスペースの利用について

利用には会員登録（要クレジットカード）が必要です。混雑状況をご確認の上、下記時間中、いつでもご利用ください。

利用料金：一日最大330円（税込み）

55円/15分※11月30日まで

は1日最大110円（税込み）

設備：フリー電源・フリー Wi-Fi

利用時間：年末年始を除く9時～22時
（月曜日のみ17時まで）

そのほか、ミーティングスペース、月極レンタルスペース、展示スペースもご利用可能。

問合せ：委託先（株）シーズプレイス

☎042-512-9958へ



ことりばホームページ

ミスは女性を総称し、スクエアは広場や広報を意味しています。

アイレック（ILEC）とは、Information（情報）・Learning（学習）Exchange（交流）・Consultation（相談）の頭文字をとった「清瀬市男女共同参画センター」の愛称です。

次号100号の発行は2022年4月1日です。

発行：清瀬市男女共同参画センター

発行日：令和3年（2021）年10月1日

企画・編集：清瀬市男女共同参画センター

〒204-0021 清瀬市元町1-2-11 アミュービル4階

☎042-495-7002 FAX 042-495-7008

女性広報「Ms.スクエア」編集委員会

編集委員：奥澤礼子／篠原由美子／中嶋オト
／山口政子／山崎奈緒／湯浅三枝子

表紙イラスト／こうたろう

きりりイラスト／篠原由美子

皆さまの声募集中

「Ms.スクエア」は公募による市民の編集委員6人が企画編集して発行している情報誌です。99号はいかがでしたか？ご意見、ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどを、郵送・FAXでアイレックまでお寄せください。

